遊びと環境

自然遊びと環境

テーマ設定理由

自然環境の遊びは乳幼児にとって非常に刺激的で楽しい体験となる。自然を観察することで子どもたちの好奇心を引き出し、気付く力を育む

問いを考える

子どもが自然の中で見つけた物に対して「これはなんだろう❓」「どんな形かな❓」好奇心を引き出す。

活動期間

令和６年7月～令和７年3月

対象クラス

1歳児 8名　　2歳児 9名

環境をデザインする

安全で触りやすい植物選びや木の実や虫が集まる場所を探した。その場で虫眼鏡で観察し、木の実は持ち帰れるよう子どもたちが色画用紙とリボンでポシェットを作成したり、絵本や図鑑で調べやすいよう日頃から手の届くところに置いて、好奇心と探究心に応えられるよう環境設定をした。

活動内容

散歩先では「これはなんだろう❓」と毎日の発見がたくさんありました。

「どんぐりたくさんあるねー。」と拾っていたところ、「なんだろう、これ❓」半分に分かれて芽が出ているものが地面から生えていました。

「まあるい石を集めたよ、ほら見て」と。ポケットからもたくさん出てきて、ベンチに並べているお友達がやってきて、そこからみんなで綺麗な石集めをしました。

「赤い実キャンディとどんぐりキャンディだよ」と松の葉を上手にさしていました。
どんぐりキャンディが気に入ったようで、この公園に行くたびに「どんぐりキャンディ作ろう！」「どんぐりキャンディ作って！！」と繰り返し楽しんでいました。

卒園児から譲ってもらったカブトムシ。自分たちで名前を付け、初めは怖がっていたお友達もいましたが、毎日観察しているうちに、「ご飯無くなったよ」「どこにいるかな」「あんまり食べてないね」「動いてないよ、元気ないね」など全員で様子を気にするようになりました。最初は誰も触ることができませんでしたが、興味が増すと共に触ってみたいと思う気持ちも出てきて、実際に触れることもできるようになりました。可愛さが増してきた頃にお別れがやってきてしまい、みんなでお別れの会をすると神妙な面持ちで花を手向ける姿が見られ命の儚さや尊さを学びました。

一人でせっせと小枝を集め、山の上の小さな窪みに入れていた子に「何作ってるの？」と聞くと、「焚き火だよ」と言い、焚火を知っていることにも、小枝を集めて焚火ごっこをしていることにも感心しました。一緒に小枝を探していると、他のお友達興味を持ち一緒に声だを集め始め遊びが広がっていきました。

近所の花屋で一人一つずつ好きな花を選んで購入し花壇に植えました。買った時は小さな苗だった花が、花壇で大きく成長し他様子をみんなで虫眼鏡を持って観察しました。

いつもは赤い木の実をみんなそれぞれが取って自分のポケットに入れて持ち帰るか、取っただけで満足してそのまま捨ててしまっていましたが、ベンチの木の隙間にその赤い木の実を落として遊ぶゲームを一人がはじめると、それを見ていたお友達が真似をして一緒に落としたり、下に溜まった木の実をまた拾って落としたりと繰り返し遊ぶ姿が見られました。自分たちで編み出した遊びで集中して長い時間続けていました。

切り株を見つけて木の実を並べたり、木の皮をめくったり、木の隙間にいる虫を発見したり。側溝の中に落ちている木の実を拾ったり、側溝を歩いているダンゴムシを観察したり捕まえたり、その場その場で色々な発見をして真剣な表情で遊んでいました。

「自分たちで色画用紙とリボンを使って手作りのポシェットを作りました。
「パパとママにおみやげなんだ」と言って大小様々な形のどんぐりをポシェットにしまう姿がありました。

振り返り

毎日の散歩で様々な公園に行く中で、それぞれの場所で様々な花や木の実、虫、石、枝などを見つけ、遊びの中に取り入れる姿が見られました。ただ好きなものを集めたりするだけでなく、そこに子どもたちの想像力が加わることで、大人では考えらない遊びへと発展することも多く、一人でじっくり遊びこむ姿もあれば、興味深い遊びには自然と他のお友達も興味を持ち大人数の遊びに発展していくこともありました。遊具の多い公園では順番に遊具を使ったり、体の使い方を知ったりなど違った学びがありますが、その反面順番などのトラブルやケガも多かったりもします。遊具のほとんどない公園では、自然物の中でゆったりとした時間の流れとともに気持ちも穏やかに遊びが展開され、自然と引き込まれるように仲間が集まったり遊びが発展していく様が見受けられました。園から歩ける距離に自然の多い公園がたくさんあるという恵まれた環境の中で生活できることで、自然と遊びを見つけ出す力がついていることを実感できています。